〈青森県史〉の窓 148

知られざる産業遺産「マイルポスト」

宮本利行
（青森県史編さん執筆協力員）

種差海岸に存在する２本のマイルポスト。中央の建物がホロンバイルで、その左が葦毛崎展望台＝2017（平成29）年９月29日・筆者撮影

種差海岸の突端は「鮫角」と呼ばれている。ここに1938（昭和13）年に建造された鮫角灯台がある。「日本の灯台50選」に選ばれた白亜の灯台である。

灯台近くの「うみねこライン」を挟んで、岬の突端の岩場に高さ5メートルほどの鉄筋コンクリート製のポールが立っている。「マイルポスト」と呼ばれ、船の速度性能を測るために使われた標柱である。

海岸線にポールを平行に2本立て、1マイル（1カイリ＝1852メートル）の間隔を空け、もう2本平行に立てる。船は海上で2本が重なって見える位置から時間を計り、もう2本重なる地点までの所要時間で速度（ノット）を割り出す。1ノットは1時間に1カイリ進む速さである。

1マイル間隔を空けたポールは、鮫駅から南側の丘に2本ではなく3本立っていた。ポールは現存していないが、1949（昭和24）年発行の海図で確認できる。1本多い理由は、船の大きさによって海上から見えにくい場合があるからだった。マイルポストは船の速度を測る計器が発達していなかったころのもので、現在は使用されていない。

知られざる産業遺産である。

鮫角灯台の後ろに、1936（昭和11）年に高千穂製紙社長で大川財閥の大川義雄が創立したタイヘイ牧場がある。大川の父は製紙王といわれ、大川財閥を築いた大川平三郎である。牧場の名称は大川の「大」と平三郎の「平」からとった。母方の祖父は渋沢栄一で、義雄の二男慶次郎は日本の競馬評論の草分けで、競馬解説者として活躍し「競馬の神様」と呼ばれた。牧場の中には競馬場があり、戦前は市民の娯楽場としてにぎわった。

タイヘイ牧場に隣接した場所に八戸南高校があった。少子化による県立高校の統合で、創立30周年を迎えた2013（平成25）年3月に閉校した（現在、校舎は八戸高等支援学校が使用）。筆者は閉校時の南高校に勤務していたが、3階理系クラスの廊下から見る太平洋は絶景で、放課後近くに出漁するサバの船団は壮観だった。

鮫角灯台から種差海岸方面に少し歩くと葦毛崎展望台が見えてくる。ここは幕末期、鮫台場が築かれた場所だった。その後、第二次世界大戦末期になると鮫台場近くの葦毛崎に旧日本海軍のレーダー基地が設置され、肉眼や双眼鏡による監視哨（戦場で敵の動きを見張るために設けた施設）が作られた。葦毛崎展望台はその跡地である。

現在、展望台は駐車場やトイレが整備され、ソフトクリームで有名な軽食を提供する店があり、種差海岸の観光地となっている。ホロンバイルという店名で、南高校に昼食を販売していた。ホロンバイルとは中国内モンゴル自治区にある都市で、モンゴル語で「広大な」という意味だ。モンゴルの大平原と葦毛崎から180度見渡せる大海原には共通するロマンを感じられるとして名付けたという。

種差海岸は国立公園としてだけでなく、知られざる産業遺産が眠っている場所でもある。